

病状によって、

抜歯が必要なケース！

抜歯というだけで拒否反応を起こしていると、病状を悪化させることにもなりかねないケースが数多くあります。抜歯が必要なケースは大きく分けて次の四つがあげられます。

①虫歯がひどくなって根の先に病気ができ、隣の歯やまわりの骨におよんでいる場合

…虫歯の場合、根管治療を行ない、できるだけ根は残しますが、どうしても抜かなければならないケースがあります。

根の先の化膿がひどくて顎の骨や根の先を大きく溶かしていたり、歯質が薄くて根にヒビ割れが入っているとき、また、歯ならびが悪くてブラッシングも十分にできず、虫歯の発生源になってしまうとき。それに隣の歯と根がくっついてしまっているときなどです。

②歯槽膿漏のため

…歯槽膿漏の初期・中期のころはブラッシングや手術などの治療法で充分ですが、骨が溶けて吸収されるなど、末期になると抜歯が必要となります。この段階になると歯根膜やまわりの歯槽骨はほとんど失われ、隣接する健康な歯や歯槽骨まで溶かされ周囲の歯肉が化膿し、腫れが繰り返されます。こうなると被害を少しでも食い止めるために抜歯します。

③親知らず

…親知らずが生えてくるのは通常18～20歳と最も遅いため、ときとして生えるスペースが残されていないことがあります。時代が進むにつれて私たちの顎はどんどん退化してきています。このように生える場所のなくなった親知らずは、横を向いたり、でっばったりして頭を出します。歯ならびも悪く、ブラッシングがいきとどかずに歯垢がたまりがちになります。また、1本の歯のために、他の歯が虫歯になるため、親知らずが炎症を起こしていたら抜歯することがあります。

抜歯が必要なケース



歯槽膿漏の末期



まわりの骨を溶かすひどい虫歯



八重歯



親知らず

④八重歯（乱ぐい歯）

…ほっそりとした顎の中におさまらない歯が、歯列からはじき出されて八重歯となります。八重歯を矯正するために、八重歯を抜くこともあります。また、乱ぐい歯の場合、例えば前歯が二重に重なっていると、不正な位置にある歯を抜くことにより審美性を良くし、不潔な部分を少なくします。



お知らせ

又力床は、いつまでも捨てずに大切にしたいものです。もし、酸っぱくなってしまったら、増えた水分をよく吸い取ってから、又力床の中に2～3個分の卵の殻を適当に砕いて入れます。酸味がすっかりなくなって、又力漬けはおいしくなり、又力床も長持ちします。